

サウロ (パウロ) の回心後から第一次伝道旅行の前まで

聖書箇所	場 所	内 容
使徒 9:1～22	ダマスコ	●ダマスコ途上で主の声を聞き回心。アナニヤから洗礼を受ける。迫害者からイエシュアがメシアであることを論証する信奉者に転換する。
ガラテヤ 1:17	アラビア	●アラビアに退いて、祈りと瞑想と思索に時を過ごす。
使徒 9:23～25	ダマスコ	●約3年間(多くの日数)、ダマスコでキリストをあかしするが、ユダヤ人たちはサウロを殺す相談をしたため、弟子たちが夜中に彼を籠で城壁からつり下ろして逃亡させた。
ガラ 1:18～19	エルサレム	●サウロはエルサレムで15日間ペテロ(ケパ)のもとに滞在したが、主の兄弟のヤコブは別として、他の使徒には合わなかった。なぜなら、弟子たちの仲間はサウロを弟子だとは信じなかったからである。そこでバルナバが仲介役を引き受け、サウロを他の使徒たちに紹介することで、はじめて。このことでサウロは弟子たちとともにエルサレムに自由に出入りすることができた。
使徒 9:26～28		●サウロがエルサレムでヘレニスト(ギリシア語を話すユダヤ人)に伝道したため、彼らに殺そうとされた。兄弟たちはそれを知って、サウロをカイザリヤに連れて帰り、サウロの生まれ故郷タルソへ送り出した。
使徒 9:29～30		●サウロがエルサレムで得た収穫の一つはバルナバとの出会いです。また主の弟ヤコブと親交を結んだことです。
ガラ 1:21～22	タルソ	●サウロはバルナバによって見出されるまで、タルソで8年を要した。この期間はパウロにとって非常に重要な隠棲の期間でした。この期間にサウロはシリアとキリキヤ地方に行っていますが、ユダヤの諸教会に彼の顔を知られることはなかったようです。
使徒 11:19～26	アンティオキア	●サウロがタルソに隠棲している間、アンティオキアに教会が目覚ましく発展していました。その目覚ましい活動がエルサレム教会に届き、そこで使徒たちはバルナバを派遣しました。 ●バルナバがアンティオキア教会で指導に当たっていたとき、彼はサウロのことを思い出し、アンティオキアからタルソに出向き、サウロと会い、彼を説得してアンテオケに連れて来て、宣教の奉仕に当たらせようとしたのです。
使徒 11:27～30	アンティオキア	●そのころ、世界中で大飢饉が起り、アンティオキア教会はユダヤに住んでいる兄弟たちに救援物資を送ることを決定し、バルナバとサウロの手に託した。